

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	医療法人社団倭会 グループホームしづく ライパユニット	評価実施年月日	平成19年11月7日
評価実施構成員氏名	荻野 悟 ・ 村中智子 ・ 高橋 優子 ・ 矢野 俊聡 ・ 照井 悠矢 ・ 豊田 由美 ・ 大前 文子 ・ 佐藤 暁美 ・ 山上 克美		
記録者氏名	池田 まゆみ	記録年月日	平成19年11月8日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいない項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>グループホーム独自の理念・方針を作り上げているが、地域密着型サービスとしての理念として新たに作り上げていないが地域との連携を図りながら落ち着いた生活が送れるよう努めている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>理念を大切にし常にその人らしく生活ができるような支援に向けミーティングを月1~2回行いながら情報を共有し、また、スタッフルームにユニット毎の目標、理念を掲げ理念の実践の目標に向けて取り組んでいる。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>家族や地域の方が来所されて一番目に付くところに理念、方針を掲げている。また、町内会に向けての新聞、ホームページ、町内会行事への参加などで地域の方に理解していただける様取り組んでいる。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>散歩などでお会いした時は挨拶を交わしたり、気軽に声をかけていただいている。庭に咲く花や野菜をいただいたりと日常的なお付き合いができています。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会に入り、近郊で行なわれる活動、行事には積極的に参加し交流ができる様努めている。</p>	<p>今後も行事などに参加し、地域との交流をさらに図れるよう努めたい。</p>
6	<p>事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議には近郊のお年寄りも参加されながら、ホームに入居されている方と気軽に会話やお茶のみが出来よう声かけを行ないながら働きかけている。</p>	<p>今後もっと数多くの地域の高齢者に役立つことがないか検討していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>自己評価から得た結果から反省や振り返りができ新たな目標も見えてくる。また、外部評価に関しては意義についてミーティングで伝え評価を職員全員で行なっている。評価の結果より得たことなどを共有し合い目標を掲げ改善に取り組んでいる</p>	
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>運営推進会議では利用者やサービスの状況、行事などの報告を必ず行なっている。また、会議他により状況をお話することによりサービス向上に繋がる案などがあれば検討し活かす努力をしている。</p>	
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>地域の高齢者支援会議に出席させていただきながら向上に努めている。市町村には疑問、質問などを確認している。</p>	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>現段階では事業所に利用している方が入所しておらず、具体的な取り組みや話し合い、支援が出来ていない。</p>	<p>地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を設けていきたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>高齢者虐待への研修の参加を促しながら学ぶ機会を設けている。また、虐待に繋がる対応がないか話し合い防止に努めている。</p>	
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約書は一語一句説明を行い、質問を確認し、質問があれば答えながら理解していただき契約を交わしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の意見、不満、苦情は職員が傾聴してミーティングや連絡ノートなどにより共有し、改善策を検討しながらよいケアに繋げるよう努めている。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	ご家族の来訪時での報告、手紙また、変化があった場合は電話で随時報告していると共に毎月のユニット新聞の配布、各ユニットでのアルバム、個人のアルバムを通しご家族の来訪時、見ていただいている金銭管理に関しても約定を交わした方のみお預かりし、毎月の領収書の添付とともに内容の確認と残高報告を行っている。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	来訪時や手紙、電話などにより意見を聞いている。連絡ノートや記録により職員も情報を共有し周知できるようにしている。苦情箱の設置や苦情対応担当者を設け事業者内にも掲示しているまた、運営推進会議での家族の参加により意見を聞く機会を設けている。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	常日頃、相談をしやすい雰囲気であり、面談などの機会を設けている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	状況に応じて随時対応している。必要に応じ勤務の調整を実施している。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	各ユニットのバランスや年齢などを配慮しながらの配置を考えているが現状ではまだ、移動はない。移動があった場合は職員や利用者のダメージを考慮しながら考える。職員が離職した場合はすぐに新しい職員を入れ配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>研修には積極的に参加するよう働きかけ、研修参加後は業務ミーティングで報告発表を行い研修内容を共有している。グループホームのみの研修ではなく、職員のメンタル的な研修などの参加の機会を設けシフト調整をおこなっている。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>グループホームでの連絡会や研修の参加で他の事業所の職員との交流を図っている。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>職員の表情の変化に注意し、ストレスになる前に解決する声かけや面談をし日々気にかけている。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>自己評価の設定、評価を行い面談をしながらフォローしている。また、個人の研修への参加希望にはシフト調整を行なっている。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>利用者の不安、疑問の訴えには傾聴し、利用者が安心して納得されるよう努めている。また、相談の際には居室にてゆっくり傾聴し、思いを受け止めるよう努めている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>相談を頂いたときはゆっくり時間を気にせずお話を聞いている。また、対応の内容も明確にしホームの対応状態を伝えている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援  相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受けてもすぐに入居には繋がらず、他のグループホームや、他のサービスも提案し対応に努めている。		
26 馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前には見学をしていただくと共に、職員が顔馴染みになれる様面会をしている。また、状態により入居後も家族が数日間過ごし、ご家族、利用者が共に安心するように働きかけることもある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	利用者に色々和昔の知恵などを教えて頂いたり、手伝ったりして頂きながら支え合う関係を築いている。また、利用者が人の為にまだまだ役に立っているという気持ちになるよう働きかけながの支援を実践している。		
28 本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族との連携も大切にし、利用者の個々の状況や、今までの生活歴の情報を聞きながら利用者とその家族との関係を築けるよう努めている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族が来訪時には普段の様子を伝えたりし、より良い関係が築いていけるように支援している。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	利用者の馴染みの店や美容院に出向き、なじみの人との関係や場所が途切れないよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の会話に職員が介入したり共同作業やレクリエーション、行事、外出などでなどで関わりあい、支え合えるよう努めている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	利用者が入院した場合などに職員がお見舞いにいたり、また、なくなった時は葬儀に参列している。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者に希望や意向を尋ねると共に、話しに傾聴し受け止める努力をしている。職員同士意見を交換したり、話し合いをし利用者の思いに近づき自由な生活をしていただくよう常に考え検討している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用者の個々の情報を職員間で共有し、利用者の一人ひとりの暮らし方を尊重し、会話の中や職員間の情報から利用者の把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一人ひとりの一日の過ごし方や心身状態は常に変動がないか見守っており現状を把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	利用者の意向に基づきプランを作成した上で実際に取り組み。職員の意見や情報を集め見直しをしながら話し合い作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	必要に応じプランを見直し、カンファレンスで話しをしている。その都度、ご家族や関係者と話し合い現状に即した計画を作成している。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子などは介護記録に記入し、介護計画を立案した後やそれぞれの利用者についての変化や気づきに対し意見を交換し、情報を共有しながら実践したり見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	買い物や外出、外泊などの要望には適時対応し、ご家族の要望には出来る範囲で支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	その場面場面で必要な事を部門ごとに協力をお願いし、また、町内会に配布する新聞などや運営推進会議を通じボランティアの受け入れ募集を行なっている。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	サービスの利用状況やその他活動について他のケアマネジャーや事業所と話し合っている。		地域のグループホームの事業者等とももっと密接に関われるような機会を設けたい。
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議では地域包括支援センターの職員の方に参加していただいている。		権利擁護について学べる機会を作っていきたいと思う。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	入居前のかかりつけの病院での受診に努めている。また、法人とも協力し週1回の看護師の訪問の他、電話相談を行なっている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	近郊の専門医の受診で相談したり、状態の変化があったときは母体の精神科の医師、看護師に相談しまた、入院が必要な時はスムーズに治療が受けられる。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	毎週看護師による訪問があり、口頭や日誌などで利用者の状況の把握を本人と家族により行なっている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	病院と連絡をとり、状況を確認したり、退院後の対応を確認している。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	今年度より重度化及び看取り介護に対する指針を定め、ご家族に説明している。入居者にとってよりよく、安心できる終末期の過ごし方について話し合い共有している。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	母体病院の協力を得て勉強会を行なっている。協力体制を確立するため、会議を行いグループホームでの重度化や終末期の理解を深め日々情報交換を行なっている。		今後も定期的な交流を深めより良い協力体制を確立していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>情報交換、共有を図りダメージを防ぐ事に努めている。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>対応に関して、十分に注意して対応している。秘密保持に関しては職員の入職時の説明や誓約書に記入し退職後も秘密保持を尊重するよう伝えてある。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>利用者が思いや希望を表せるようゆっくり話しをしたり、利用者の思いを尊重して、納得していただけるよう支援している。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>利用者一人ひとりのペースを大切に希望に沿って支援しているが状況により支援できない時もある。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>利用者の馴染みの美容室へ行っていただいたり、馴染みの店に買い物に行ける様努めている。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>利用者の嗜好を聞き、利用者と一緒に食事の準備や後片付けをし、それぞれの残存機能に合わせて行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	利用者の希望する飲み物を出している。タバコも自由に喫煙されている。おやつなども好みの物を楽しんでもらっている。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人ひとりの排泄のパターンを把握しており気持ちよく排泄が出来るよう支援している。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	利用者の希望に沿って曜日や時間帯の決まりなくいつでも入浴している。本人の希望で介助したり、タイミングに合わせて入浴が楽しめる様支援している。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人ひとりの自由な時間を尊重し、利用者が気兼ねなく休むことが出来るよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	利用者の出来る事を尊重し、役割を持てるよう支援している。また、お天気の良い日は散歩やドライブ買い物と気晴らしになるよう支援している。		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ほとんどの入所者の方はお金を所持し、職員は支援しながら自由に買い物にいかれる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	ドライブや散歩、買い物などなるべく戸外に出かけられる様支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	お墓参りや買い物、公開放送など希望があれば行き。また、希望がなくても支援している。車の人数の関係もあるが家族にも声をかけ機会をつくり支援している。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	電話の希望や郵便物などは利用者の訴えがあったときは支援しているが、職員から促すことは少ない。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会にいらした方に笑顔で挨拶などをし居心地が良く過ごしていただけるよう心がけている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束になるような対応や言葉遣いには十分配慮し行なっている。		身体拘束に関してもっと理解するよう今後も取組んでいきたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	職員は鍵をかけることの弊害を理解し、居室や玄関も鍵をかけないケアに取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>67 利用者の安全確認</p> <p>職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>利用者のプライバシーに配慮しながら利用者に配慮し、見守り所在確認を行なっている。</p>		
<p>68 注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>利用者一人ひとりの状態に応じて物品を使う時は職員が横で一緒に行なうなど注意を払っている。一部管理しているものもあるが状況に応じ取り組んでいる。</p>		
<p>69 事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>利用者一人ひとりの状態に合わせ転倒の危険がありそうな場合は職員が付き添ったり、行方不明の時のために捜査マニュアルがあり事故防止に取り組んでいる。火災に関しては年2回の避難訓練を実施している。</p>		
<p>70 急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>心肺蘇生法や応急手当の指導訓練を受けているがまだ、十分ではないと思う。</p>		<p>一度に職員、全員が訓練を受ける事が出来ないので情報を共有し積み重ね、正しい応急措置が出来るよう努めたい。</p>
<p>71 災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>年2回行なわれる避難訓練を通し避難方法を学んでいる。訓練の際の報告もホームページや新聞などを通し災害に対する理解と協力をお願いしている。</p>		
<p>72 リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>リスクやストレスなどの軽減も考慮しながら家族に説明し理解を得ながら行なっている。</p>		<p>今後も家族との連絡を密に取り、話し合いながら対応していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>平常時のバイタルの把握をし、体調の変化に常に注意を払い接し、職員間でも情報を共有し早期対応に結びつけている。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>新しく薬が処方されても職員が把握できるよう個人ファイルに綴じ、薬の変更時は利用者の観察を行なっている。</p>	
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かさず働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>便秘に対する理解をし、運動、水分、乳製品、食物繊維を多く含む食材で日々予防に務めている。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食後、口腔ケアを行なっている。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>水分摂取量、食事摂取量を個別に作成し個々に記録をしながら行なっている。食事の形態も一人ひとりに合ったもので支援している。</p>	
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>インフルエンザに関してはご家族に同意書をいただき毎年摂取し予防に務めている。また、外出時はうがい、手洗いを実行している。寝具、居室も清潔を心がけリネン交換をし、感染マニュアルを入職時配布し職員も感染に対する予防に務めている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいない項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	まな板、布きん、包丁の漂白やアルコール消毒を徹底し、食材は新鮮なものを使いきり、在庫確認も常に行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	置物や季節の花を玄関に置き、玄関口にもベンチを置き気軽に座り話しが出来るとともに、建物周辺に職員と利用者が花を植え親しみやすい工夫をしている。		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	居室の入り口や各共用の空間には写真や絵が飾られ暖かく居心地がよい工夫をしている。台所も対面式で利用者と話しながら作業が出来るようになっている。		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	利用者一人ひとりが自由に過ごせるスペースが確保され、利用者の方が思い思いに過ごされている。		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	一人ひとりの使い慣れた家具や寝具があり居心地よく過ごされている。		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	温度計、加湿器を備え、温度調節、換気に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>建物には手すりが付いており、安全で自立した生活が送れるよう配慮されている。手すりがない部分は代用となるもので安全に出来るように工夫している。</p>	
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>一人ひとりの話しを傾聴したり、理解していただけるよう説明し、自立していただけるよう援助している。</p>	
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>建物の回りは、花畑や畑になっており、好きな活動が出来るように活かしている。</p>	



. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> 毎日ある <input type="radio"/> 数日に1回程度ある <input type="radio"/> たまにある <input type="radio"/> ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族 <input type="radio"/> 家族の2 / 3くらい <input type="radio"/> 家族の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどできていない

サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度</p> <input checked="" type="radio"/> たまに <input type="radio"/> ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<p>大いに増えている</p> <input checked="" type="radio"/> 少しずつ増えている <input type="radio"/> あまり増えていない <input type="radio"/> 全くいない
98	職員は、生き生きと働けている	<p>ほぼ全ての職員が</p> <input checked="" type="radio"/> 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<p>ほぼ全ての利用者が</p> <input checked="" type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<p>ほぼ全ての家族等が</p> <input checked="" type="radio"/> 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載) 笑顔で笑いの絶えない、楽しい雰囲気づくりを大切にしています。